

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471300376		
法人名	特定非営利活動法人 快		
事業所名	グループホーム 快 栗駒		
所在地	宮城県栗原市栗駒稲屋敷後原前13		
自己評価作成日	平成29年 2月 16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年3月 1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改造した一軒家であり小規模ではありますが、家庭的な雰囲気を大切にしており地域に溶け込み親まれています。職員が子供を連れてくることで、入居者様により家庭らしさを味わっていただくことができました。職員の人数が少なく高齢化もんでいますが、子世代・孫世代・ひ孫世代と大家族のような雰囲気となっています。職員それぞれの個性や特技を生かし、日々の生活や季節ごとの行事などを通して入居者様に親しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

栗駒山登山の玄関口、栗駒岩ヶ崎地区南部の田園地帯にあり、近くにある小学校、中学校の生徒や近隣住民との交流がある。職員数が少ないことから入居者も現在6名のアットホーム的な雰囲気、近隣からは新米や野菜の差し入れがある。入居者の大半が歌謡曲等が好きで、のど自慢や録画番組のテレビを觀賞している。目標達成計画に掲げた「運営推進会議の定期開催」「介護計画の時期の見直し」「避難訓練の実施」の3項目について、入居者の体調不調等から計画倒れや取り組みの途中である。法人とホームが一体となって、問題解決と目標達成を推進していただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム快栗駒)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス事業所としてホーム独自の理念を掲げている。入居者の入れ替わりもあり改めて確認した。	「地域の人に支えられ、入居者一人ひとりが安心して生活できる経営を旨とする」の理念から5項目の目標を掲げ、年度末に全職員で振り返りを行った。今後は職員個々の目標設定による理念の実践を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し年次総会や地域清掃に参加している。日々のあいさつを心がけ、ホーム便りを毎月発行し80世帯に配布している。野菜や新聞紙の差し入れをいただいている。	栗駒中学校生徒が手縫いの雑巾を毎年持って来て、肩を揉んでくれたりお手玉や輪投げをして一緒に過ごす交流がある。注文した野菜を運んでくる人とは、「元気？」とか「どうしているの？」等の声を掛けてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの行事等に招待したり、ホーム便りを通して情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーとの関係づくりは個別に行っているが、前年度の目標でもある会議の開催が日常のケアに追われてきていない。開催できるように取り組んでいきたい。	H26年以降開催していない会議を今年1月に家族3名、入居者2名の参加で開催している。行政、地域包括職員の参加での定期開催がされていない。	以前は市や自治会長の参加を得て開催していたことから、現在は「なぜ開催できないか」を検討願いたい。ホームだけの問題とせず理事長をも交えた解決をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や訪問した際に随時相談にのって戴くようにしている。自治会長さんより市政だよりを月2回届けていただき、安否確認や感染症など注意喚起を受けている。	家族から生活保護受給入居者の年金受給資格確認の相談があり、介護保険課を通して年金担当に相談した。介護度区分に疑問を感じ、家族と相談して再認定を受けた。褥瘡の研修会に職員1名参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の行動パターン、性格を把握し、日中は施錠しないなど身体拘束をしないケアを目指している。スピーチロック等拘束にあいたいすることがないか確認しあうようにしている。	入居者の大半が車椅子利用であるが、長時間の使用のないよう気遣っている。昼間の玄関施錠、及び、居室でのセンサー使用は行っていない。大きい声を「叱られた」と思い込む入居者がいるため、声掛けに配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送り時を通して職員同士で話し合い、些細な言動等もその都度注意しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を読むようにはしているが理解が十分とは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・退居前に本人及び家族に説明を行い、理解と納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に意見や要望を伺うようにしており、運営に反映できるよう努めている。	家族からシルバーカー利用の相談があり、資料準備や業者紹介等の依頼に応じた。菓子を持参し「食べさせてほしい」の要望や居室の蛍光灯が切れそうだとの声があり、すぐに対応した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用したり、日々の業務の中で出た意見等を代表者へ電話やメールで伝えている。	定例的な職員会議は開催していないが、申し送り時に意見、提案を受けている。子供連れでの勤務が可能であり、入居者も孫のように接している。介護福祉士実習費用の助成を提案し、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が遠方にいるため条件整備が図れるよう、電話やメールで意見したり、来所時に直接話す等に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を行ったり資料の配布をしている。外部の研修を受けられるよう案内等を提示しているが中々できてはいない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者募集に関し、ケアマネージャーが関係機関や同業者を訪問し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安にならない程度に話しかけ、お話を伺ったりホームに馴染めるように話し相手を見つけてあげる等、入居者同士の関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前に見学していただき、ホームの案内をするとともに、これまでの家族の苦労話を聞いたり要望を聞くなどして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用する方のこれまでの生活のリズムをあまり変えることなく、本人と家族が抱えているニーズや気持ちを確認しながら、最適なサービスを受けられるよう話し合うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員がすべて行うのではなく、入居者一人ひとりが「今」できることを見極め、残存機能を生かしてお手伝い等をしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りや生活状況を月1回紙面で送付し情報の共有に努めている。また都合の良い時や治療の変更時には受診に同行していただき関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	使い慣れたものを持ち込んでいただいたり、入居する前のお友達や親戚の方が遊びに来やすい雰囲気作りに努めている。また馴染みの場や人の把握に努めている。	週に2、3回友人や知人に電話する入居者への支援がある。家族との外出が楽しみで、帰ると「お寿司屋さんに行って来た」ことなどを嬉しそうに話している。2人で外を眺めたり互いの部屋を行き来する入居者がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分からコミュニケーションが図れない方には職員から話しかけたり寄り添ったりしている。入居者同士が交流できるよう間に入る等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了したり、亡くなったりした際は、ご家族の話を聞いたりお手伝いする等して、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の相談に加え、入居年数が経つにつれ希望や意向も変化していくため、日常生活においての会話や表情から思いを把握するよう努めている。	お茶を飲みながらや目を見ての会話を心掛け、入居者同士の会話からも要望把握等に努めている。花を植えたいとの希望にホームセンターに行ったり、広告を見て「これを買ってきて」の要望に応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはなるべく多くの生活情報を把握し、これまでの生活とあまり変わらない生活が送れるよう努めている。またサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子の観察や、本人との日々のかかわりの中で本人なりの過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師等と話し合いや相談を行い、日々の様子をもとに介護計画を作成している。	ケア記録や受診結果を基に状況に変化が見られる入居者の計画書は、作成担当者が見直し、家族等への説明、同意を得ている。特に変化が見られない入居者の見直し、説明は2年以上行っていない。	年2回以上、全職員での話し合いと、必要に応じ見直した計画書を作成することが求められている。法人、ホーム全体で再認識による、定期的な計画書見直しを行っていただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別の介護記録に残し、職員間での情報共有を図りながら、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を含めその時々ニーズに合わせてサービス提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生とのふれあいや、地域の方をお誘いして踊りの会などを開催し交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医とホームの関係を深めながら入居者の現状にあった医療を受けられるように支援している。	入居者6名が3件のかかりつけ医に受診しており、職員が同行支援している。受診時は日常のケア記録等からの状況説明を行い、診断結果の確認、指示内容については家族に電話で報告、了解を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常のかかわりの中で得た情報や築きなどを介護記録に記入し、定期受診時や電話で相談し適切な受診につながるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して入院治療を受けられるように、入院中は定期的に面会したり、病院関係者との情報交換や相談を行い、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取り介護の指針を文書化し、重度化した場合や終末期に向けた話し合いに努めている。ホームとして出来ること、出来ないこと等を家族や医療関係者に伝える等理解していただけるよう段階に応じた説明も行っている。	「看取り介護に関する指針」を明文化し、説明、同意を得ているが、当ホームでは訪問看護師等の確保はされていない。急変時等の対応は協力医の栗原中央病院となっているが、現状はそれぞれのかかりつけ医となっている。	現在の指針では「看取りを前提」としている内容であることから、ホームの体制に合った指針にして頂きたい。協力医療機関についても現状に沿った体制の見直しを検討していただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に備えてマニュアルや連絡体制を状況に応じて見直しや整備をしている。職員一人一人の実践力を高めるための勉強会をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に参加し地域の方に協力していただき避難方法の確認を行った。年2回の避難訓練は昨年実地できなかった。	地域の避難訓練には参加はしたが、事業所の災害訓練は計画だけに終わった。県から「スプリンクラー未設置施設調査」があり、「H29年度中設置」で回答し、現在理事長が賃貸主と交渉中である。	木造建築で年数も経ていることから、地域の協力体制を含めた防災訓練実施とスプリンクラーの早期設置は不可欠と思われる。法人、ホーム一体となった防災対策構築をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前で恥ずかしい思いをさせないように、目立たない言葉かけや対応に配慮している。	呼称は姓や名前に「さん」付けで行っている。居室入室の際は、ノックと声掛けを実践している。トイレのドアを開放して入る入居者には、「紙ある？」や「一人で大丈夫？」等の声をかけ閉める配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるよう働きかけに努めている。困難な方にも選択肢を出したり、表情を読み取る等心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースや希望を大切に、その人らしく過ごしていただけるよう支援に努めている。日によっては職員側の都合を優先させるような言葉が見られる時があり、日々改善できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の持ち物の中でその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう日々努めている。お化粧品や散髪なども本人の希望を聞きながら行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、希望を聞いたり、入居者が職員と一緒に準備や片付けができるよう努めている。夏には家庭菜園で野菜作りをする等季節のものを取り入れるようにしている。	野菜作りは、トマト、ナス、ゴーヤ等を植え、花の段階から収穫、食卓まで楽しんでいる。野菜の皮むきやジャガイモを潰す等をしている。近隣からは新米や野菜の差し入れがある。メニューは職員立案である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないよう、毎食後に一人一人の状態に応じた口腔ケアができるよう努めている。歯科医による訪問歯科、歯科衛生士による口腔ケア指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の様子を確認し排泄パターンの把握に努めている。間に合わない方には早めに声掛けする等できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	退院後おむつ使用だった入居者が、リハパンを経て1人でポータブルトイレ排泄が可能になった。失禁した際「今日はお風呂の日だよ」と声掛けし、洗浄、着替えを行う配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ、マッサージ等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見ながら、一人ひとりの希望やタイミングを図り、安全に入浴できるよう支援している。拒否のある方には時間を置いたり、職員が交代したり声掛けの仕方を変える等工夫している。	2人介助での寝たきりの入居者2名を含め全員が週3回の入浴と、日曜日は足浴の支援を行っている。入浴を拒否することもあるが、声掛けと職員交代で応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣やその時の状況に応じて、自宅にいるような雰囲気の中で休息し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の目的や副作用・用法や用量に理解しており服薬の支援と症状の変化の気を付けている。疑問があるときは医師や薬剤師に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできることに合わせて洗濯物畳みや、野菜の皮むき等お手伝いしていただき、やりがいを感じていただけるよう努めている。また季節ごとの行事やゲーム工作等楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	頻繁には行えないものの、散歩や敷地内での農作業、希望に応じて買い物に行く等行っている。お花見やあやめ園・運動会の見学等の季節ごとの外出の機会を設けている。またご家族様との外食や外出できるよう支援している。	全員が車椅子を利用して近隣・館山公園へのお花見や一迫あやめ園へに出かけている。ひなたぼっこをしながらの近隣散歩では、地域住民や小学生と「元気ですか」等の挨拶での交流がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在小遣いとしてホームで管理させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友達と電話や手紙のやり取りができるよう支援している。職員が代筆したり代弁することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間や曜日、季節に合わせて、テーブルの配置や壁飾りなどを工夫し居心地よく過ごしていただけるようにつとめている。温度湿度の確認をし適温を心がけている。	入居者の大半は歌謡曲等の歌番組が大好きで、のど自慢放送や日常的に懐メロ等の録画番組を居間で楽しんでいる。居間は狭いので、席の工夫に配慮している。楽しく過ごした新年会や節分の行事写真や雛飾りの絵等が壁面に掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが思い思いの場所で仲の良い方と一緒に思い思いに過ごしていただけるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや本人が大切にしているものなどの持ち込みをお願いし、できるだけ自宅にいるような生活感で過ごしていただけるよう努めている。	居室のドアには入居者の顔写真が貼られてあり、室内には孫や家族の写真を飾っている入居者もある。室内はエアコンの備え付けがあり、ガラス戸には防寒対策にエア緩衝材を張り対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が自立した生活が送れるように、安心・安全な環境づくりの工夫に努めている。		